

教科	理科	科目	生物基礎			単位数	2単位
学科	工業科	履修学年	1 学年	コース		必修・選択	必修
教科書	改訂 新編生物基礎（東京書籍）						
副教材等	ニューサポート 改訂 新編生物基礎（東京書籍）						

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学習目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
指導の重点	生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞のはたらき及びDNAの構造と機能の概要を理解させ、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けさせる。 生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探究し、生物には体内環境を維持するしくみがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識させる。 生物の多様性と生態系について観察、実験などを通して探究し、生態系の成り立ちを理解させ、その保全の重要性について認識させる。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	生物の特徴 遺伝子とそのはたらき	生物の多様性と共通性 生物とエネルギー 遺伝情報とDNA (期末考査)	定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	2 学期 (24)	遺伝子とそのはたらき ヒトの体の調節	遺伝情報とタンパク質の合成 (中間考査) ヒトの体を調節するしくみ 免疫のはたらき (期末考査)	定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	3 学期 (20)	生物の多様性と生態系	植生と遷移 生態系と生物の多様性 (学年末考査)	定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
計 6 4 時間 (5 5 分授業)				
評価の観点 の趣旨と 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生物や生物現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身につけている。		生物や生物現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、導き出した自らの考えを的確に表現するなど、科学的に探究しようとしている。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
[評価方法] 定期考査 小テストの成績 実験レポート 等		[評価方法] 定期考査 実験レポート 授業中の発言 グループワーク 等		[評価方法] 実験への取組状況 授業プリント 等
上記の内容から総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。		上記の内容から総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。		上記の内容から総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。